

公共団地における新華僑の集住化と生活実態

埼玉県川口市芝園団地の事例

3810020008

江 衛

An Analysis of Residential Concentration of The New-Overseas Chinese and Their Lives In A Public Apartment Complex A Case Study Of Chinese Living In Shibazono, Kawaguchi City , Saitama Prefecture , Japan

JIANG Wei

Since the open economic policy of China, overseas study has become very popular. Great numbers of Chinese have entered into Japan, and they have become "the New-overseas Chinese." This is a well-known term in Japanese society. The influx of these New-overseas Chinese has brought about great changes among Chinese residents and their society in Japan. There are distinct differences between the Old-overseas Chinese (Ro-Kakyo) and the New-overseas Chinese (Shin-Kakyo). Most former studies on overseas Chinese focused on China-towns in Japan and their traditional Chinese ways, but few studies exist on the New-overseas Chinese.

The main purpose of this essay is to study the New-overseas Chinese who have formed a residential cluster in Shibazono apartment complex, Kawaguchi. I would like to report on the process of how this concentration of New-overseas Chinese took place at the public apartment complex and these people's lives there. I have interviewed these residents regarding their overseas study and their lives in Japan. Moreover, I have collected data regarding their present jobs, the educational situation of their children, and their daily lives.

Key words: Chinese living in Japan , new overseas Chinese , residential concentration , public apartment complex, Kawaguchi City

キーワード： 在日中国人，新華僑，集住化，公共団地，川口市

<論文構成>

第1章 序論

第1節 従来の研究と問題点

第2節 本研究の目的と方法

第2章 日本における新華僑の人口推移と居住動向

第1節 新華僑の人口推移と変化

第2節 新華僑の居住動向

第3節 民間賃貸住宅の問題

第3章 芝園団地における新華僑の集住化

第1節 公団賃貸住宅の現状

1. 公団賃貸住宅の推移

2. 芝園団地の概観

3. 公団住宅の入居条件

第2節 芝園団地への新華僑の集住化

1. 芝園団地における人口増加

2. 芝園団地における新華僑の世帯状況

第3節 芝園団地への集住化の要因

1. 集住化の外的要因

2. 集住化の内的要因

第4章 芝園団地における新華僑の生活実態

第1節 経済活動の実態

1. 経済活動の多様化・専門化

2. 起業家としての活動

第2節 文化・教育の実態

1. 芝園小学校の実態

2. 中国文化の保持

第3節 生活習慣の実態

1. 余暇生活の実態

2. 文化習慣の現状

第4節 将来の居住への意識

1. 芝園団地の定住傾向

2. 「マイホーム」の選択条件

第5節 ケーススタディー

第5章 結論

謝辞

参考文献

<要約>

1. 研究の目的

中国の改革開放政策後の留学ブームにより、日本へも多数中国人留学生が来訪するようになった。日本における華僑・華人社会には新華僑の増加で大きな変化がみられ、新華僑と老華僑の違いが鮮明になってきている。従来の研究においては、日本のチャイナタウンや伝統的華人社会を対象にした研究が多く、近年における新華僑に焦点を当てた研究は少ない。

そこで本研究では、埼玉県川口市の芝園団地を事例に、公共団地における新華僑の集住化のプロセスと彼らの生活実態を明らかにすることを目的とする。その際、そこに住む新華僑の留学事情から、現在に至るまでの生活状況を分析し、芝園団地への集住化の要因を検討する。また、彼らの職業の構造、子弟の教育、生活習慣などの実態を考察していく。

なお、本研究が対象とする新華僑の

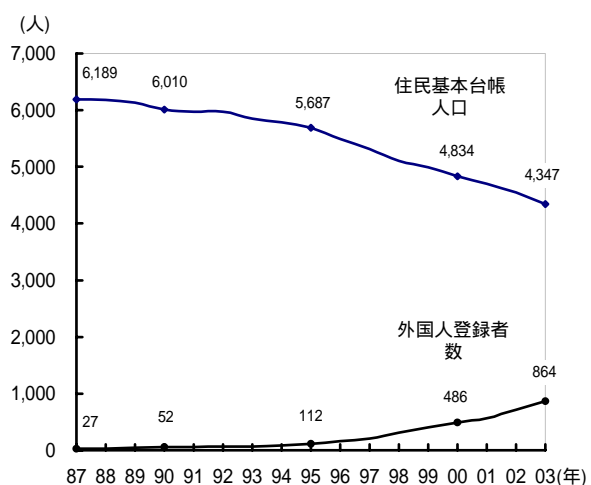


図1 芝園町における人口の推移

『川口市・人口統計』各年版(毎年付1月1日)より作成

ほとんどが中国大陸出身者であることから、中国大陸出身（香港・台湾出身者を除く）の中国人移住者という意味で新華僑という語を用いることにする。本論文中の新華僑は一般的に言われる「新華僑」より、さらに広い概念を有する。すなわち、華僑・華人になる可能性が高い「就学」、「留学」および就労関係ビザを持つ中国籍保有者を含む「予備軍」を新華僑に含めており、その点を考慮に入れ、考察を進める。

華僑・華人社会の研究においては、関連統計資料の不足に加えて、中国籍保有者の警戒心の強さなどから聞き取り調査やアンケート調査の実施は容易ではない。本研究では、筆者が「同胞」である点を生かして、研究対象者との信頼関係を徐々に築きながら、聞き取りおよびアンケート調査を実施した。2002年10月から2003年4月までの間に、芝園団地に在住している新華僑を対象としたアンケート調査を2回行った。アンケート調査票の配布数は、2回合わせて98部であり、回収部数は50部、有効回収率は51.0%である。

2. 芝園団地における集住化と生活実態

新華僑の多くは、日本の大都市に集中している。その一方、大都市の人口密集、物価高、家賃高などの影響により、都心から近郊へ移動する傾向がみられる。2003年10月まで、芝園団地を含む芝園町には2,878世帯、5,227人が居住し、芝園町の外国人登録者は538世帯、997人にのぼる。詳細な統計は明らかにされていないが、関係者等からの聞き取りによると、芝園団地（2,454室で約4,500人）に居住する中国籍保有者は、外国人登録者数の95%以上を占めていると推定される（図1）。つまり、芝園団地の入居者の中、5人の中に1人が中国籍保有者である。

新華僑の芝園団地への集住化は、90年代初期から始まり、90年代半ばからの増加が顕著になった。その集住化の要因については、次のようにまとめることができる。

一つは外的要因であり、公団住宅の老朽化と高齢化・少子化が進み、空家が増える傾向にある。これは日本人の入居者が年々減少していることを意味する。そのような外的要因に基づく「隙間」は、部屋探しの苦労を体験してきた新華僑に入居の機会を増やし、彼らの集住化を促進させることになった。また、交通の利便性が高いことと、居住環境が整備されていることもあげられる。もう一つは内的要因であり、公団住宅の申請手続きが比較的簡単であるのに加え、民間賃貸住宅より家賃が安く、安定した収入がある新華僑にとっては、大きなメリットを生じさせる。団地にある新華僑のコミュニティは子弟の教育やクラブの活動などを通じて形成され、ネットワークが広がるという期待もある。

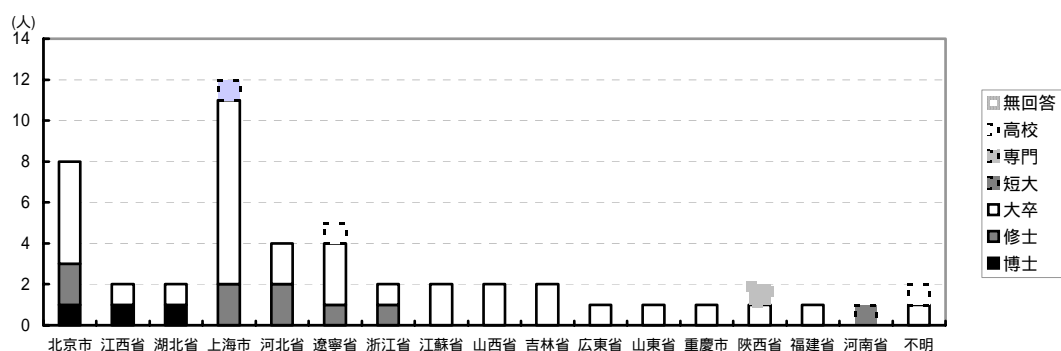


図2 入居者の出身地と学歴の分布

アンケート調査より作成

上述した諸要因により、芝園団地における新華僑が目立つようになっている。調査の結果として、芝園団地に居住する中国籍保有者のほとんどは、就業者とその家族であることが明らかになった。安定した収入がある中国籍サラリーマンは、年を重ねるにつれ、家族も増え、賃貸住宅の更新など煩わしい手続きのない公共団地に集まってくるようになる。そのうち、約3割が「永住者」ビザを持ち、約9割が大学を卒業している(図2)。約7割を占める契約名義人は、IT関係や技術などの仕事をしている。また家族での入居者の約9割の世帯には幼い子供がいる。多くの子供が幼稚園と小学校に通っていることも確認された。さらに、ある程度の社会経済的地位を獲得した新華僑は、子供の教育に熱心であり、同胞の子供たちが多く居住している芝園団地を転居先を選ぶ者も多い。

母国で仕事の経験がある新華僑は、IT関係と技術系などに従事している人が多いが、起業家として活動している人も少なくない。一方、全校生徒が年々減少している芝園小学校で、2003年の小学校新入生のうち、中国籍生徒は約4割を占めている(図3)。「知識人」の親は子供の成長につれ、学校の成績と中国語能力の衰退には一喜一憂しており、将来に対する不安も少なくない。何故なら将来的に日本に定住するか、或いは帰国するか、さらには第三国に行くかということを真剣に考えている新華僑が多いためである。

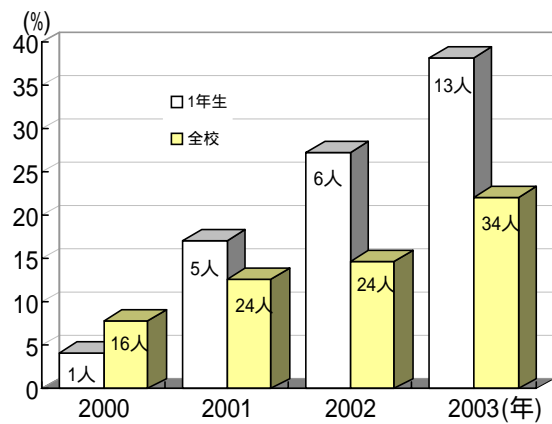


図3 中国籍生徒数の割合

芝園小学校の資料より作成